学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）総合	科目	（学）集団活動C	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本講座は、下記を目的とする。
・学校外の組織（地域団体、企業、専門家）に対し、チームの目的を伝え、協力を得るためのコミュニケーション（交渉や提案）を行うスキルを身につける。（交渉力）
・異なる目的を持つ外部組織と協力することで、単独では生み出せない、より高度で社会的な価値を創造する協働体験を積む。（多様性受容力）

2　学習の到達目標

【知識・技能】
外部連携のための提案書作成や、交渉・折衝の基本的なスキルを活用し、社会実装に必要な計画や検証の手法を習得する。
【思考・判断・表現】
連携先の目的や制約を考慮し、最適な協働・交渉戦略を立案し、異なる価値観を持つ集団との間で、合意形成を図るプロセスを論理的に表現する。
【主体的に学習に取り組む態度】
未知の環境（外部組織）へ臆することなく積極的にアプローチし、利害が対立する状況においても、多様な意見を尊重し、建設的に議論に取り組む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	授業ごとに必要な内容をプリントに記入する。 まとめや考察をプリントに記入する。	事項をまとめる力や表現力を高める。 あたえられた考察に対し、自分の考えを述べ、プリントに記入する。	それぞれの学習内容に対し、意欲的に取り組んでいる。 また、適切な発言を行っている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	縦割り活動1	集団活動の実践を通して、コミュニケーション能力の向上を図り、自身の行動がチームに与える影響を体験的に学ぶ。 ボランティア等の外部連携の活用方法を計画する。	a：集団での自身の役割を理解し、役割を果たす。 b：他者や集団の課題を発見し、解決するための方法を分かりやすく表現する。 c：チームでの活動が円滑に進むように、役割分担をして、積極的に活動する。	プリントの記述	考察の内容	授業中の態度と発言
	集団活動1	外部組織を見学する提案書の作成方法を学習。目的を明確に伝えるための交渉方法を学び、実践する。 外部組織を見学し、自身の進路選択の幅を広げる。	a：必要な情報を正しくに言葉にする。 b：情報の取捨選択を的確に説明する。 c：回数を重ねるごとに工夫し、必要な情報を見極めたり、適切な伝え方を考える。			
後期	集団活動2	複数の活動に対して、所属集団に応じた役割分担を考える。 意見が対立した際の合意形成手法(コンセンサス、多数決、統合案など)の学習と実践を行い、集団での合意形成を体験する。 ボランティア等の外部連携の活用方法を計画する。	a：必要な情報を正しくに言葉にする。 b：情報の取捨選択を的確に説明する。 c：回数を重ねるごとに工夫し、必要な情報を見極めたり、適切な伝え方を考える。			
	集団活動3	外部組織を見学する提案書の作成方法を学習。目的を明確に伝えるための交渉方法を学び、実践する。 外部組織を見学し、自身の進路選択の幅を広げる。	a：必要な情報を正しくに言葉にする。 b：情報の取捨選択を的確に説明する。 c：回数を重ねるごとに工夫し、必要な情報を見極めたり、適切な伝え方を考える。			
	縦割り活動2	集団活動の実践を通して、コミュニケーション能力の向上を図り、自身の行動がチームに与える影響を体験的に学ぶ。	a：集団での自身の役割を理解し、役割を果たす。 b：他者や集団の課題を発見し、解決するための方法を分かりやすく表現する。 c：チームでの活動が円滑に進むように、役割分担をして、積極的に活動する。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度